



バンコクで開催された国際学会で 日本の最先端ロボットリハビリを報告

2014年12月11-13日にタイのバンコクで開催されたアジアパシフィックリハビリテーション学会(4th AOCPRM)に荻野、濱本が参加しました。12月なので大阪は真冬の寒さでしたが、バンコクのスワンナプーム国際空港に到着すると真夏の暑さですぐにダウンジャケットは片付けてしまいました。ホテルまでの車中からバンコクの街並みを見ていると、新しいビルを建てるための工事があちこちでされており、成長真ただ中の街であるという力強さが感じられました。また、タイに行ったのは初めてでしたが、走っている車がほとんど日本車であったり、有名な日本の企業の看板が至る所にあたりと、とても親しみを感じられました。

到着翌日に、ポスター発表のため会場に行くと、様々な医療メーカーのブースが設置されており、理学療法で用いる運動器具、超音波を病変部に当てる装置、その他にも何に使うのか見てもよく分からない装置(?)も含め、様々な新しい器具が紹介されていました。また、会場内はそれぞれの出身国の民族衣装を身に付けた参加者もあり、多国籍な雰囲気となっていました。

新しい情報を得て普段の臨床に活かそうとする姿勢は万国共通で、情報交換も盛んに行われていました。

発表の場では、当院で行っているHondaの歩行アシストロボットの人工関節術後の成績について発表しました。ただ、こちらは拙い英語力なので、質問された事に返事をする際、伝えたい内容をしっかり伝えきことは難しく、今後のためにも英語を身につける事の重要性を痛感した場でもありました。

学会名にリハビリテーションと付いていますが、大勢の参加者の発表内容は多岐に渡り、腰痛にも様々な原因、治療法があることの紹介、実験室内で動物の細胞を用いた研究を行った成果の報告、それぞれの出身国がかかえる問題に関する発表をする方もいました。

国籍を超えての討論が繰り広げられるのを目の当たりにし、ハードルは少し高いですが、国内学会だけではなく、時には海外の学会にも参加する事の意義や楽しさを実感させて頂いた学会となりました。

街中でクリスマスツリーを半袖姿で眺めている人達がミスマッチな光景で面白く感じたことも思い出の一つです。



濱本と座長との質疑応答



荻野の発表



半袖の人が行き交う
クリスマスツリー